

Case1▶▶▶

総務部 DF センター主任捜査官

国家公務員一般職（高卒程度）採用・入庁19年目・女性

01 PAST

——言葉を紡ぐ喜びを、捜査を支える力に変えて

Q：入庁前のどんな経験が、現在の業務に生きていますか。

A：子どもの頃から**自分の経験や考えを形にすることが好き**でした。学生時代は映画雑誌の編集者になるのが夢で、出版社に原稿を送ったり、新聞部に所属し学校新聞の制作に没頭したりしていました。その後、紆余曲折を経て、好きなことよりも興味のあることを仕事にしたいと思い検察事務官になりましたが、こうした過去の経験が、現在、**解析結果の報告書やプレゼン資料をまとめる際に生きています**と感じています。

Q：自分のどのような性格が、現在の業務に活かされていると思いますか。

A：**好奇心と探究心が強いところ**ですかね。自分を見つめ直してみると、分からないことを知りたいという気持ちが日頃から強いと思います。データの解析中に「なぜ？」と感じたら、自分が納得できるところまで解析します。その結果、**断片的だったデータ同士を繋げ、事件の真相解明に至った**ことがあります。また、周囲を支えることに喜びややりがいを感じる性格なので、**自分のサポートやアドバイスが誰かの力になった時**に大きなやりがいを感じます。

「いい思い出も、そうでない思い出も、全てに意味があったと思っています。タイムマシンがあっても過去は変えないかな。今の私じゃなくなるので。」

——プロとしての情熱と、仲間との絆

Q：現在の業務に従事する中で、やりがいを感じる瞬間はありますか。

A：事件の真相解明につながる**デジタル証拠の断片を発見したとき**には熱くなります。断片を集めて再構築に成功したときには大きな達成感を感じますし、報告書の作成にも熱が入ります。最近ですと、**自分が作成した報告書に関して、公判で証言した際**にもかなり気合いが入りました。解析によって導き出した客観的事実が、検察官の立証を支える強固な柱になったとき、**自分の磨いてきた専門性が組織の力に変わったことを実感**してとてもやりがいを感じます。

Q：困難に直面したとき、どのように乗り越えてきましたか。

A：**一人で抱え込まず、仲間**の存在を支えにしながら、**不甲斐ない自分も受け入れて**前向きに乗り越えてきました。

これまでの検察人生が常に順風満帆だったわけではありません。自分の力不足に涙し、落ち込む日もありました。しかし、そんな苦境を乗り越えさせてくれたのは、**いつも隣にいてくれた先輩や同僚、そして後輩たちの存在**です。一緒に笑ったり、励まし合ったり、それぞれの存在に支えられてきました。**私も、誰かにとってそんな存在になりたい**です。

「先輩、同僚、そして後輩。その誰一人欠けても、今の私は存在しません。背中を押してくれた仲間たちがいたからこそ、ここまで歩んでこられたと思っています。」

——共に挑む組織を目指して

Q：これまでの経験を踏まえて、将来的にどのように活躍し、検察庁へ貢献していきたいですか。

A：お互いを思いやり、チームで高め合える「居心地のいい職場」を創っていきたいですね。

職場には、様々な立場の方がいます。職場を一步出れば、誰かのお父さんやお母さんであったり、誰かの娘や息子、誰かにとっての大切な人です。お互いに思いやりを持って仕事に向き合うことで、それぞれの環境の中で、自分らしく最善を尽くすことができると思っています。

そして、チームで目標に向かって頑張ったり、気軽に相談し合えたりするような職場環境があれば、仕事はもっと楽しく、前向きなものになっていくと思います。そんな職場づくりを通して、組織の活性化に貢献したいと考えています。

Q：現在の業務に従事する中で、どんなスキルが身につきましたか。またそのスキルは、今後、自身の成長のためにどのように生かせると思いますか。

A：現在の部署では、デジタルに関する高度かつ専門的なスキルや、複雑な内容をかみ砕いて伝える言語化能力、人前で話す力を身につけることができました。これらを生かして、今後はDF人材の育成に積極的に関わりながら、自分自身も好奇心と探究心を忘れず、より高度な業務に挑戦していきたいと思っています。

「次はどんな出会いが待っていて、この手でどんな未来を創り出していけるのか。想像するだけで、ワクワクします。」